

2020年度 学校関係者評価報告書

日本プリンティングアカデミー
学校関係者評価委員会

■2020 年度学校関係者評価について

日本プリンティングアカデミーは、「印刷関連産業に的を定めた専門教育・研究機関」「次世代を担う経営・営業・技術者育成のための専門教育・研究機関」として1978年4月に開校された印刷関連企業の成長を支援する唯一の学校法人・専門学校です。印刷関連業界に支えられ、創立43年目。国内・海外を含めて、関連業界に約 1000 名以上の人財を排出し、約700名の卒業生が現役として活躍しています。

平成20年度に学校教育法施行規則が改正となり、専修学校においても関係者評価の実施および公開が義務化されたことをふまえ、日本プリンティングアカデミーも学校関係者評価を実施・公開を行い、ご意見をいただきPDCAの実施を行い、さらなる印刷関連企業の成長支援のため、また人財育成のため、教育の質の向上に取り組んでいます。

1. 対象期間

2020年4月1日～2021年3月31日

○委員会開催

第1回 2020年 6月15日（火）15:00～18:00

第2回 2020年 10月16日（金）13:00～16:00

第3回 2020年 3月15日（月）15:00～18:00

2. 実施方法

（1）実施組織：学校関係者評価委員会

木村賢一郎（株式会社北陸サンライズ 代表取締役社長）

吉田陽子（株式会社ヨシダコーポレーション 代表取締役）

平塚音四郎（スタジオ OT0 主宰 日本写真家協会会員 日本広告写真家協会会員）

大山信二（株式会社シー・オー・エム 代表取締役）

丸山和之（株式会社エイト 代表取締役社長）

補佐：中村（日本プリンティングアカデミー事務局代表）

（2）評価基準

文部科学省「専修学校における学校評価ガイドライン」に準拠。

（3）評価方法

学校関係者評価委員会による学校の監査と学生アンケート、教職員、各部門担当者へのヒアリングを実施、関係者評価委員会を開催し、学校関係者評価に取り纏め。

3. 評価の項目

- (1) 教育理念・目標
- (2) 学校運営
- (3) 教育活動
- (4) 学修成果
- (5) 学生支援
- (6) 教育環境
- (7) 学生の受け入れ募集
- (9) 財務
- (9) 法令等の遵守
- (10) 社会貢献・地域貢献

4. 評価項目に対する評価

- (1) 次の4段階で点数評価しました。

4：適切 3：ほぼ適切 2：やや不適切 1：不適切

- (2) それぞれの評価項目のうち評価3以下のものについての状況と課題について報告いたします。

1. 教育理念・目標

No	設問	評価点
1	学校の理念・目的・育成人材像は定められているか	④・3・2・1
2	専門分野における職業教育の特色は明確か	④・3・2・1
3	社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4・③・2・1
4	学校の理念・目的・育成人材像・職業教育の特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか	4・③・2・1
5	各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4・③・2・1

【2020年度の現状と今後の課題】

3. 社会状況の変化に伴い、ニーズの変化に合わせたカリキュラム構成を行なっているが、昨今のニーズの多様化、細分化、デジタル化に対応できるよう基礎をより重点的に行い、応用や実技に繋げていく必要があり更なる教育構想の向上を期待。また、コロナの影響から学内のDX化や感染予防対策など今年度は特に重視することを希望する。
4. 理念や目的等は学校案内やWEBには掲載され、動画によるコンテンツや資料なども追加はされているが、まだまだ少ないと言える、更なる充実化を希望する。
5. 業界ニーズに合わせた新学科の設立を行いカリキュラムも方向づけられているが、学生側の理解度や成長に合わせて教育されているのか常に検証・改善することを希望する。

2. 学校運営

No	設問	評価点
1	目的等に沿った運営方針が策定されているか	④・3・2・1
2	運営方針に沿った事業計画が策定されているか	④・3・2・1
3	運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	④・3・2・1
4	人事、給与に関する規程等は整備されているか	④・3・2・1
5	教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	④・3・2・1
6	業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4・③・2・1
7	教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	4・③・2・1
8	情報システム化等による業務の効率化が図られているか	④・3・2・1

【2020年度の現状と今後の課題】

6. コンプライアンス体制の整備は文書による情報の共有化を行ってはいるが、教職員の研修や勉強会を積極的に実施することにより組織的なコンプライアンス体制にすることを希望する。
7. 教育活動等に関する情報公開はWebサイトにより行われているが数が少ないと言える。年間を通じた定期的な公開を希望する。

3. 教育活動

No	設問	評価点
1	教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	④・3・2・1
2	教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4・③・2・1
3	学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	④・3・2・1
4	キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4・③・2・1
5	関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4・③・2・1
6	関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	4・③・2・1
7	授業評価の実施・評価体制はあるか	④・3・2・1
8	職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	④・3・2・1
9	成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	④・3・2・1
10	資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4・③・2・1
11	人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	4・③・2・1
12	業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含む）を確保するなどマネジメントが行われているか	4・③・2・1
13	関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための取り組みが行われているか	④・3・2・1
14	教職員の指導力育成や能力開発など資質向上を目指した研修等が行われているか	④・3・2・1

【2020年度の現状と今後の改善策】

- 基本的には、教育レベル・学習時間の確保は明確化できている。しかしながら、今年度はコロナの影響によりインターンシップ教育（企業研修、見学、実習）が不可能となった。今後はオンラインによる研修や実習を新たに取り入れコロナ禍であっても対応できることを希望する。

4. 2. 同様今後はインターンシップ教育のオンライン化や学内でのそれに合わせた基礎教育の連携が必要になる、またオンライン化によるメリット・デメリットを見極めて最大限の効果が出るように実施することを希望する。

5. 今年度は後援会組織がスタートし印刷業界でも有数の経営者の講義や企業見学が予定されていたがコロナ禍により思うように行われなかった。今後はコロナ禍であってもオンラインなどを活用し経営者との交流会や講義を実現させることを希望する。

6. 産学連携によるインターンシップは体系的に位置づけられているが、コロナ禍の影響により実現することが不可能となったが今後はコロナ禍であってもオンラインなどで実施できるよう工夫していただくことを希望する。

10. 今年度は資格取得を意識した指導体制、カリキュラムではあったがコロナ禍により検定試験が中止された。今後はオンラインでの受験体制をしっかりと確保することを希望する。

11. 優秀な教員の確保は常に行っているが、DXなど最新技術に対応する教員の確保など時代にも対応しながら確保していくことを希望する。

12. 昨年同様ではあるが、小規模学校運営の現状にて難しいと思うが、各授業内容に合わせた実践に強いプロフェッショナルな講師の確保を希望する。

4. 学修成果

No	設問	評価点
1	就職率の向上が図られているか	④・3・2・1
2	資格取得率の向上が図られているか	4・③・2・1
3	退学率の低減が図られているか	④・3・2・1
4	卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	④・3・2・1
5	卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	④・3・2・1

【2020年度の現状と今後の改善策】

2. 昨年同様、専任講師による各資格を取り扱う業界団体での委員就任など指導体制は確保しているが、取得率の向上は課題。学生資質やレベルに合わせた受験や指導法の策定を希望する。

5. 学生支援

No	設問	評価点
1	進路・就職に関する支援体制は整備されているか	④・3・2・1
2	学生相談に関する体制は整備されているか	④・3・2・1
3	学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	4・③・2・1
4	学生の健康管理を担う組織体制はあるか	④・3・2・1
5	課外活動に対する支援体制は整備されているか	4・③・2・1
6	学生の生活環境への支援は行われているか	4・③・2・1
7	保護者と適切に連携しているか	④・3・2・1
8	卒業生への支援体制はあるか	④・3・2・1
9	社会のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4・③・2・1

【2020年度の現状と今後の改善策】

3. 企業・関係施設等や業界団体等より支援を受け奨学金制度の拡充を行なっている、さらに今後は後援会からの支援をお願いし奨学金が充実することを希望する。
5. コロナ禍において課外活動は支援が大変難しい状況であるが感染予防対策を万全にし、出来るところから実行することを希望する。
6. 学生はオンライン授業に急に変更したため不安やストレスを感じている、友人関係、アルバイトなど、心のケアを中心に担当職員がカウンセリングを定期的に行うことを希望する。また父兄へのカウンセリング報告等、綿密な連携も希望する。
9. 業界標準の教育設備の充実を業界関連メーカー様協力のもとに行ってはいるが、設備の老朽化も見受けられる、定期的なメンテナンスや部品交換を行い引き続き教育環境の設備の充実を希望する。

6. 教育環境

No	設問	評価点
1	施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4 ・ ③ ・ 2 ・ 1
2	学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4 ・ ③ ・ 2 ・ 1
3	防災に対する体制は整備されているか	④ ・ 3 ・ 2 ・ 1

【2020年度の現状と今後の改善策】

1. 教育上必要な施設・設備としては対応十分と判断できるが、機械の定期的なメンテナンス・管理をしっかり行い、いつでも印刷現場と同様に設備が可動できることを希望する。
2. コロナ禍において十分なインターンシップや海外研修は事実上不可能となっている、ドイツでの印刷の展示会も中止になった、しかしながらオンラインによるセミナーや研修、インターンシップは増加傾向にある、今後はこれらを踏まえ、よりオンラインを取り入れた教育体制を整備することを希望する。

7. 学生受入れ募集

No	設問	評価点
1	学生募集活動は、適正に行われているか	4 ・ ③ ・ 2 ・ 1
2	学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4 ・ ③ ・ 2 ・ 1
3	学納金は妥当なものとなっているか	④ ・ 3 ・ 2 ・ 1

【2020年度の現状と今後の改善策】

1. 学校案内の充実化を行い、一般募集をしているが在校生増加は微増である。今後は印刷業会にも後援会のご協力をお願いし業界全体に告知をすることを希望する。
2. 学校案内パンフレット等紙媒体は充実をしているがWEBサイトやSNSの適切な更新や効果測定、問題点の発見・修正などがあまり見受けられない、コロナ禍においてWEBやオンラインツールの活用は必須であり、これまで以上に活用することを希望する。

8. 財務

No	設問	評価点
1	中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4 ・ ③ ・ 2 ・ 1
2	予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4 ・ ③ ・ 2 ・ 1
3	財務について会計監査が適正に行われているか	④ ・ 3 ・ 2 ・ 1
4	財務情報公開の体制整備はできているか	④ ・ 3 ・ 2 ・ 1

【2020年度の現状と今後の改善策】

- 1・2. 昨年同様であるが、ここ数年の学生数減少による収益減が財務基盤の不安要素である。人件費率の改善や経費節減に努めるとともに、学生数確保が最優先課題であり学生募集における計画を中心に、中長期計画において速やかに実行することを希望する。

9. 法令等の遵守

No	設問	評価点
1	法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	④・3・2・1
2	個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	④・3・2・1
3	自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	4・③・2・1
4	自己評価結果を公開しているか	④・3・2・1

【2020年度の現状と今後の改善策】

- 自己評価の実施と問題点の改善は常に努めてはいるが、それだけではなく中長期の改善対策方針を行うように希望する。

10. 社会貢献・地域貢献

No	設問	評価点
1	学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4 ・ 3 ・ ② ・ 1
2	学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	4 ・ 3 ・ ② ・ 1
3	地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	4 ・ 3 ・ ② ・ 1

【2020年度の現状と今後の改善策】

1. 現状の社会貢献・地域貢献は、小規模且つ限定的であり、またコロナ禍の影響もあった。今後は、感染予防をしっかりと踏まえた学校法人として教育資源・施設を活用した貢献を意義ある活動として捉え貢献活動の充実を希望する。
2. 現状の学生のボランティア活動の奨励、支援は限定的であり、またコロナ禍の影響もあった。今後は、感染予防をしっかりと踏まえた少人数でも可能なボランティア・地域交流等の活動の選出を行い学生のボランティア活動の奨励、支援を希望する。
3. 今年度の地域貢献はコロナ禍の影響により不可能であったが、今後は少人数でも実施することを希望する。